



N033 「特別支援教育」って「特別な教育」？

— 特別支援教育の視点が 日々の授業に役立つ —

「特別支援教育」はその推進のため、「校内委員会の設置」や「特別支援教育コーディネーター」の指名というハード面から、まずは整備が進められました。

そのため、今までの学校教育に新たに“特別なもの”が加わったように感じられた方が、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで今回は、通常の学級における「特別支援教育」は「特別な教育」なのかということについて、平成20年度ある小学校において行われた総合訪問時の「テーマごとの話し合い」をもとに考えてみたいと思います。

テーマ：児童が進んで問題の解決に取り組むための工夫

【先生方から出された意見】

- ・ 「児童が何に興味をもっているか」ということを、教師があらかじめ把握していること。
- ・ 学習課題の提示の仕方が7～8割のウエイトを占める。その中で課題のゴールが見えるようにすること。
- ・ 時間、場所、使うもの、ゴール、終わったら何をするかまで考えること。
- ・ 今、何の活動をしているのかが分かっていること。
- ・ 集中しやすいように、一度にたくさんの課題を出さないこと。



「発達障がい」に配慮した
指導方法」と同じ



「特別支援教育」の視点は、特別な支援を必要とする児童生徒のためだけに役立つものではなく、どの子にも分かりやすい授業を提供する上での基本となる。

発達障がいへの配慮

- 指示は短く明確に
 - ・箇条書きのように話す
- 視覚的に示す
 - ・文字や絵を活用する
- 見通しを持たせる
 - ・今、何をするのか
 - ⇒ “めあて”を明確に
 - ・どれだけやるか
 - ・終わったら次に何をするのか
- 刺激を制限する
 - ・集中できる環境整備
- 興味や関心のあることを生かす
 - ・成功体験を増やす